

日本ゼオンと名大が受賞

熱可塑性エラストマーの開発で

授賞式の様子



日本ゼオンは5月12日、名古屋大学大学院工学研究科の野呂篤史講師（未来社会創造機構マテリアルイノベーション研

究所及び脱炭素社会創造センター（兼務）らの研究グループとの共同研究成果により、「2022年度日本レオロジー学会技術賞」および「第35回日本ゴム協会賞」を共同受賞することを発表した。同社は、名古屋大学との共同研究で、同社が上市している熱可塑性エラストマー（製品名：Quintac）に対して化学修飾を施すことで、「強靱な官能性スチレン系熱

可塑性エラストマー」を開発している。特にイオン性官能基を導入したものは、引張強度、タフネス、耐衝撃性が、従来のものと比べて3倍以上の値を示すことが分かっている。この共同研究成果に対して、2報の査読付き論文を共同発表、さらに国内外で複数の特許が成立し、国際的な産業競争力も有し、今回、日本レオロジー学会及び日本ゴム協会

から、それぞれ2022年度日本レオロジー学会技術賞及び第35回日本ゴム協会賞を共同受賞することになった。それぞれの賞はレオロジーを含む技術（工学、工業化技術を含む）に関して顕著な業績のあった者に授与される賞、ゴムやその周辺領域における科学・技術又はその産業分野の発展に寄与し、その業績が極めて顕著な者に授与される賞となっている。

ゴムタイムス 2023年（令和5年）5月23日 1面

「日本ゼオンと名大が受賞 熱可塑性エラストマーの開発で」

（この記事・写真等は、ゴムタイムス社の許諾を得て転載しています。複写・配布禁止）